

けんおうおおはしにしづめしゅうへん

県央大橋西詰周辺地区

(新潟県燕市)

- 計画期間 平成28年度～令和2年度
- 面積 145ha
- 交付対象事業費 337百万円
- 市人口 77,687人

ポイント

文化・交流の拠点づくりを通じた都市のコンパクト化への貢献

地区概要

地域の活力向上につなげる集客交流拠点及び周辺施設を整備することにより、地域外からの来訪者や隣接地区を含む地域住民との交流による「にぎわい」の創出を図る

目標

- ①豊かな市民生活を支え、市内外に魅力を発信する文化・交流施設の強化・充実を図る。
- ②拠点施設間の有機的な連携が可能となるよう一体性や回遊性を創出する。
- ③人々が訪れやすい環境を整える。

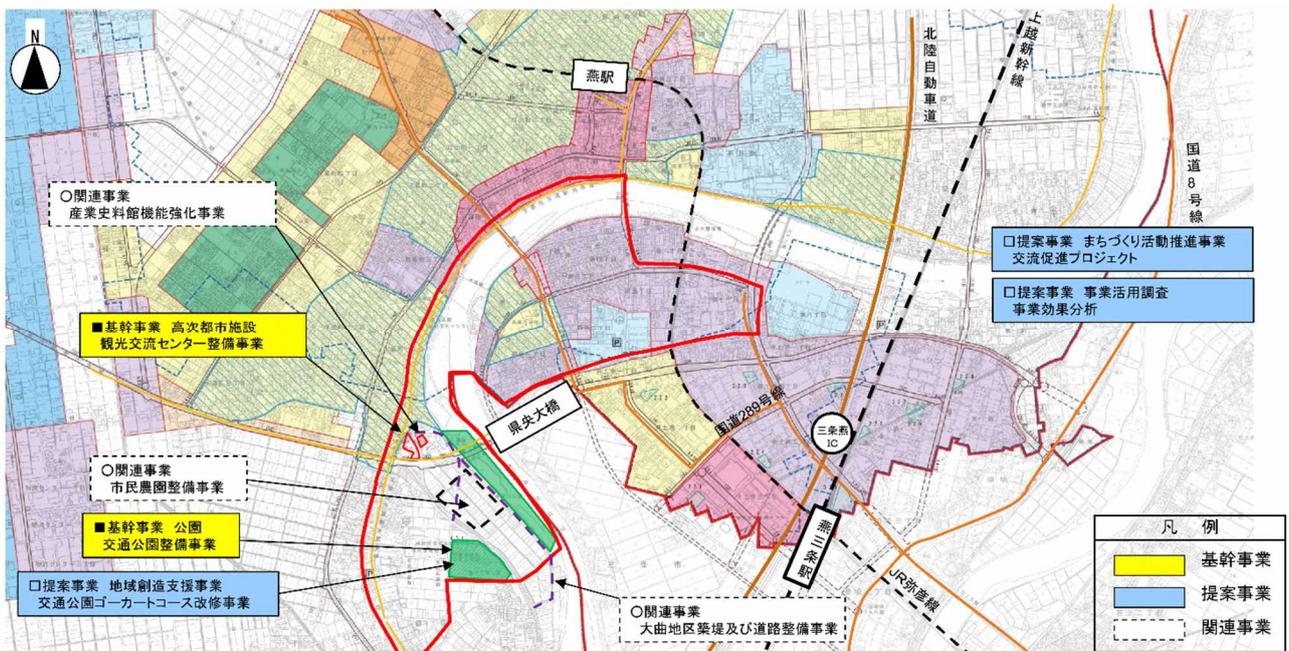
指標

- ・本地区を整備することで隣接する広域交流拠点や生活拠点への波及効果を、地区周辺の居住人口の動向により評価する。
- ・拠点施設の機能強化・充実やアクセス性及び回遊性の向上による集客効果を、周辺施設利用者数の増加により評価する。

地区内及びその周辺 (燕駅南の旧市街地や秋葉町、水道町)の居住人口	15,722人 (H26)	→	15,516人 (R2)
周辺施設(産業史料館、大曲河川公園、交通公園)の利用者数	128,808人/年 (H26)	→	146,151人/年 (R2)

事業内容

- 基幹事業 (328百万円) → 高次都市施設(観光交流センター床面積約869㎡)公園(1箇所)
- 提案事業 (9百万円) → 地域創造支援事業(産業資料館機能強化事業)まちづくり活動推進事業(交流促進プロジェクト)



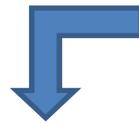
地区の現況と課題

地区の現況

県央大橋西詰周辺地区は、公共施設が近接して立地する文化・交流拠点である。既存の公共施設が多数立地しているが、広く集客を図る要素には乏しい状況であったため、施設間の誘導路を確保し、周遊性の向上を図りました。

課題

- ・周辺に暮らす若者世代や子育て世代等が1日中遊べる公園や施設がない。
- ・産業、自然、スポーツ・レクリエーション、交流に関連する様々な公共施設が集積しているが、いずれも特定の目的を持った対象者が利用する施設であり、施設間のつながりがハード、ソフト両面で希薄である。
- ・施設間の移動経路・空間が充分ではなく、また、自動車利用者を本地区に誘導する案内機能が不足している。



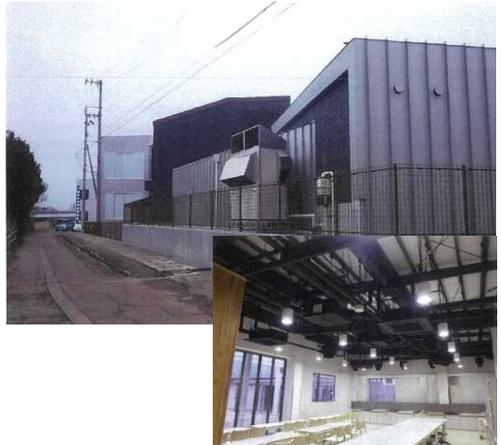
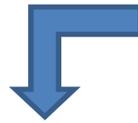
提案事業の特徴

産業資料館機能強化事業

燕市の伝統産業の発信・体験拠点である産業史料館は、現在の利用者ニーズや将来の利用のあり方を踏まえ、老朽化した本館の改修を含め、展示の工夫や体験機能の見直し、新たな機能の付加等を行い、集客交流施設とともに、市民の余暇活動や健康づくりを支え、また、市内外に魅力を発信する施設としての機能強化を図りました。

交流促進プロジェクト

拠点施設間の一体性を創出し、文化・交流拠点としての魅力アップを相乗的に図るため、施設間の連携を生み出すソフトな仕掛けや仕組みを実践。



▲産業史料館機能強化事業

計画策定プロセス

交通公園・児童研修館の利用者に対するアンケート調査

交通公園、児童研修館こどもの森の利用者を対象に、平成26年10月中旬の土曜日に、アンケート調査を実施した。(サンプル数214人)

広報等による意見募集

市の広報・ホームページを通じて市民アイデアを募集したところ、10人(30~70歳の男性9人、女性1人)から意見が提出された。

関係団体ヒアリング

本計画の策定に当たり、産業史料館運営委員会やつばめ若者会議のほか市内業界団体や農業関係者など10の団体・個人に対し、対象エリアの交流拠点としての可能性や本市の産業について意見・要望を聴取した。

燕市県央大橋西詰周辺地域整備基本計画策定懇談会

燕市県央大橋西詰周辺地域整備基本計画策定懇談会を計7回開催し、本地区の更なる活性化や賑わいの創出に向けた方策を検討した。



▲修学旅行生利用状況
(産業史料館)